

中本助教(山口大大学院)の論文最優秀

難治性聴力障害に新たな治療法の可能性

来月、北海道で授賞式と講演

山口大大学院医学系研究科耳鼻咽喉学分野の中本哲也助教(40)の論文が、日本耳鼻咽喉科学会発行の英文科学雑誌「Auris Nasus Larynx」に昨年度掲載された論文の中から、最優秀の「第12回SPIO Award」に選ばれた。5月15〜18日に北海道札幌市で開かれる同学会の総会・学術講演会内で授賞式があり、中本助教が記念講演をする。

SPIOは国際耳鼻科学会の関連団体。同一下が対象。昨年度は69編が掲載され、候補対

象の13編を英文誌委員

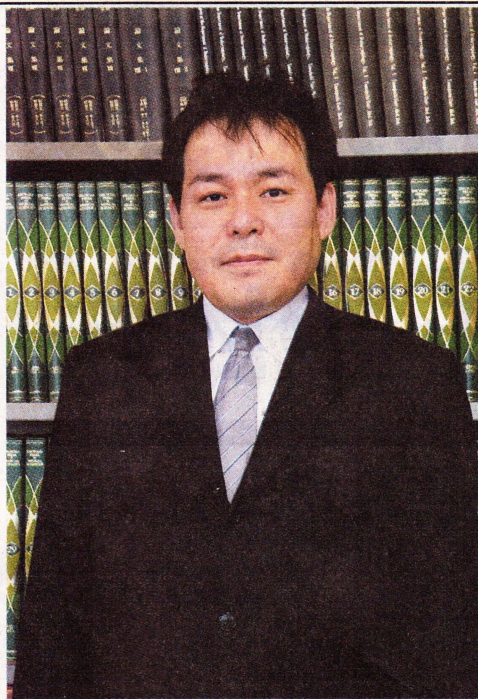
会が審査。3編を選考委員会に推薦し、その中から、中本助教が最優秀賞に輝いた。受賞は11人目。

中本助教は、耳鼻咽喉科学分野の山下裕司教授や医化学分野の中井彰教授の指導を受けながら、2年間にわたる「内耳と熱ショック応答」について研究。生体を持つストレスに対する保護効果である「熱ショック応答」が、

音響障害後の炎症を抑制することを解明し、高く評価された。

炎症を誘導する物質「炎症サイトカイン」に着目。マウスに大きな音(130デシベル)を聞かせて内耳に炎症反応を起させ、内耳での熱ショック応答による炎症性サイトカインの発現への影響や聴力への影響を調べた。研究の結果、熱ショック応答が炎症サイトカインを抑制することで、音響負荷後の聴力保護に関係しているという新たなメカニズムを解明した。

受賞が決まり、指導者の面教授や、共に研究に取り組んできた耳鼻咽喉科学教室の仲間たちに感謝する中本助教。難治性の聴力障害に対して、熱ショック応答を介した新たな治療法が生まれるきっかけになれば」と抱負を語る。(松原)



論文が最優秀賞に選ばれた中本助教(山口大医学部で)